

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キンダー・ラボ「かのん」		
○保護者評価実施期間	令和6年12月16日		～ 令和7年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46名	(回答者数) 29名
○従業者評価実施期間	令和6年12月16日		～ 令和7年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	5領域に即した各種療育プログラムが充実している。ライフステージに応じた取り組みが出来ている。	各種研修や資格取得など職員の質の向上や支援の充実につながるような取り組みを行っている。	5領域に即した療育プログラムの職員間で共有をしながら、お子様一人一人に合った支援提供につなげていく。
2	教育機関や行政機関・相談支援事業所等関係機関との連携が密に取れている。また、医療機関受診時に同行する等連携体制を取っている。	教育・福祉・行政・医療を巻き込みながらの多職種連携を心がけており、ケース会議や日頃の情報共有を密にしてお互いの専門性を生かしながら支援の方向性の確認やフィードバック等を行いながら次のステップにつなげている。	医療との更なる連携強化により様々な角度から児童を観察しながら学びの保障に繋げていけるよう支援を行う。
3	事業所が街中にあるため利用児が自主登園をするなど自立に向けた訓練が出来る。	利用児が自分で登園できるよう支援を行っている。	保護者様・教育機関等との連絡体制を取り、安全に配慮しながら支援を行う。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	市内小中学校に在籍している利用児童が多く、学校行事等により利用人数が左右されることがある。	小学校高学年や中学生の利用児童が多く、曜日の予約制での利用となっているが、無理が生じているところもある。	利用予定表の提出に加えて、時間割や学校行事など予め分かっている予定について保護者様より情報をいただく。
2	年度途中の新規利用希望児童の利用枠の確保がなかなか難しい。	定員の枠の関係や利用児が途中で卒園することが少ないため。	回数を多く来ているお子様やお子様の課題達成状況により、利用枠を譲っていただいたり、卒園後も相談を受け入れるなどフォローアップ体制を整えていく。
3			